

技術セミナーに約280人が参加

漏水・結露事故を抑制するハウゼコセットなどを提案

ハウゼコ（神戸睦史社長、大阪府大阪市）は2月19日、東京都内で、「ハウゼコ技術セミナー」を開催した。工務店やハウスメーカー、設計事務所などの関係者約280人が参加。木造住宅の雨仕舞のポイントや、漏水・結露事故を抑制する通気・換気部材を紹介した。

ハウゼコは、木造住宅の通気・換気対策を伝授する「ハウゼコ技術セミナー」を全国各地を巡回して開催している。2月19日には2014年度の最後を締めくくるセミナーを東京で開催。工務店や設計事務所の関係者など約280人が参加した。

セミナーの中で、同社の神戸社長は、販売好調な「ハウゼコセット」などを紹介。ハウゼコセットとは、「バルコニーの手すり」、母屋に差しかけてつくる「下屋」、壁と壁が入り合って交わる「入隅」の3箇所の通気・換気部材をセットで提案するもの。いずれの箇所も構造が複雑であり、作業工程が入り組むため、漏水・結露事故が多発する要注意箇所である。バルコニーの笠木下換気部材として開発したのが「アンタレスミニ」。バルコニーの腰壁部の通気性能を確保する一方で、雨水を壁体内に浸入させない防水性にも優れている。さらに、非常なシンプルな納まりであるため、誰が施工しても同じ性能を発揮する。

下屋専用の通気・換気部材が換気雨押え「ベテルギウス」。母屋と下屋の取り合い部に設置するだけで、下屋の下の小屋裏にこもる湿気を効果的に屋外に排出できる。スレート屋根や、金属製の立平屋根など、様々な形状の屋根対応可能。

入隅部の通気経路を確保するために開発したのが、通気入隅ハット「インコーナーベンチレーションハット」。入隅部に設置するだけで、溜まりやすい湿気を効率的に排出可能。省施工、コスト削減にも寄与する。

「長持ちする住まい」をテーマに座談会

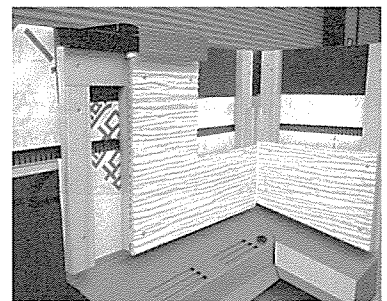
同社が設立した屋根換気壁通気研究会の座談会も実施された。同研究会の特別顧問には、(独)

建築研究所の坂本雄三理事長、顧問に東海大学の石川廣三名誉教授、近畿大学の岩前篤教授、専務理事に松尾設計室の松尾和也代表取締役が就任している。神戸氏は「室内の換気については、先進的な研究が進められている一方で、住宅外皮の通気・換気については、置き去りにされているという懸念があった。研究会を通じて、工務店や設計事務所などの実務者と、大学などの学識経験者とが交流できる場を設け、住宅外皮の耐久性向上に資する研究を進めていきたい」と述べた。

座談会には理事長を務める神戸氏を始め、特別顧問、顧問、専務理事の各氏が登壇。「長持ちする住まいとは？一居住性と耐久性の両立は可能か？」をテーマに議論を交わした。



「住宅外皮の耐久性向上に資する研究を進めていきたい」と話す神戸社長



「バルコニー手すり」「下屋」「入隅」の3箇所の通気・換気部材をセットで提案するハウゼコセット



ハウゼコ技術セミナーには約280人が参加。大盛況となった